

知事と県民の意見交換会（秋田地域振興局）議事要旨

- テーマ : 私が就職先を選ぶ際のポイントはこれ！～学生から選ばれる職場づくりのためには～
- 日時 : 令和5年7月11日（火）13:00～15:00
- 場所 : 秋田公立美術大学 アトリエももさだ 多目的ホール

知事挨拶

本日は御参加いただき、感謝申し上げます。

普段、各市町村長や大学の学長、商工会議所会頭など、様々な団体・組織の代表者と情報交換する機会は多くあるが、県政の課題の当事者と直接話す機会が少ないため、自ら出向いて話を伺っている。

本県では、若い方の県外流出が非常に大きな問題となっている。私も県外の大学に進学し、最初は東京で就職した。日本は若い方が少ないため、若い方が能力を最大限生かし、日本全体の発展に貢献することは非常に重要であり、やりたい仕事がない県内になかったら、県外へ行くということは悪いことではないと考えている。しかし、人口減少対策や地域の活性化のため、自分の希望する仕事がない県内にあるのであれば、できるだけ県内で就職していただきたい。

県内の高校卒業者約7,000人のうち、就職者2,000人については、8割が県内就職をし、2割は県外就職をしている。しかし、残り5,000人の進学者について、進学先を卒業した後、県内就職が少ないことが問題である。県内企業等における大卒者等の求人数は、2,000～2,300人程度あるが、実際に就職する方は1,000人弱となっている。かつては、大卒者等給料が良くなかったことや大学等で学んだ専門的な能力を生かせる企業や仕事がないということもあったが、現在では誘致企業、地元企業とも給料が上がってきている。大手IT企業では、給料が30万円を超えるところもあるほか、地元企業でも洋上風力関係や業務の高度化などのため、専門的な知識を持った方を求めており、待遇面も向上している。しかし、こうした企業が求めているものと皆さんが求めているものが一致しないと、マッチングせずに県内就職が進まないため、皆さんがどのような基準で就職先を選んでいるか教えていただきたい。

意見交換

（局長）

就職活動開始前や開始直後において、どのようなポイントで企業を選んでいたかについて、お聞かせいただきたい。また、もし選ばないポイントもあれば、併せて願います。

（A氏）

仕事を離れたプライベートの部分を充実させたいと考えており、給料やワーク・ライフ・バランスなどを重視していた。また、地元で貢献できる仕事をしたいという思いを持っているため、秋田市外や秋田県外に転勤する可能性がある仕事は選ばなかった。

(局長)

近年、待遇面のみならず、働きやすさという面が重視されているが、企業を選ぶ際、働きやすさは重要なポイントとなるか。また、周りの方はどうか。

(A氏)

給料が高いと学生は飛びつきやすいだろうが、その仕事を長く続けていくための環境も重要だと考える。

友人等は、早く就職活動を終えたいため、内々定の取りやすさを重要視しているように感じるが、その中でも、給料の高さや休みの取りやすさなどのワーク・ライフ・バランスに重きを置いている者は多い。

(B氏)

給料は考慮したい点ではあるが、働いてからの自分の姿を想像し、馴染みやすい社風であるか、やりがいを感じて好きなことに従事できるかという観点で選んだ。就職後、自分がどうやって生きていくかを第一に考えた。例えば、自分が萎縮して働かなければならない環境だと、精神的にも辛く、長く続かないと思われるため、選択肢に入らなかった。

(局長)

就職先を選ぶに当たり、これまでの創作活動等により培った感性等を生かし、ものづくりの仕事などをしたいという考えがあったのか。

また、近年、定年まで働きたいという方が徐々に増えているようだが、就職先で定年まで働きたいという考えはあるか。

(B氏)

そういった考えに加え、自分の趣味や創作のための時間を確保できることも重要視していた。

東北が好きで、東北に住み続けたいと考えており、就職先についても長く働きたいと考えている。

(C氏)

給料の高さ、残業の少なさ、企業風土などが判断基準の上位になってくる。大手鉄道会社に就職予定だが、鉄道業界に進みたいという将来の夢と自分の適性を大学のキャリアガイダンス等を通じて考えた上で、インターンシップに参加した。

インターンシップについて、社内風土を確認したり、福利厚生や休暇などの普段聞きにくい部分を聞いたりできる良い機会だが、実質的な早期選考に直結しているように感じた。

(D氏)

1～2年時などの就職活動前の時点では、知名度や給料の高さを見ていた。また、海外で働くチャンスがあるかという点についても重要視していた。

自分の価値を発揮できる仕事に魅力を感じていたため、繰り返しの単純作業などの仕事は選ばなかった。

(局長)

業種や規模については選ぶ際のポイントになるか。

(D氏)

日本を代表する大手企業が良いと考えていた。

(局長)

情報収集はどのように行っていたか。

(D氏)

就職活動開始前は、大学の先輩が一番の情報源だった。その後、徐々にインターネットでの情報収集にシフトしていった。

(E氏)

自分が学びたい領域に力を入れている病院かどうか、職場の雰囲気、福利厚生を重視していた。どの領域に力を入れているかは、病院の理念にも表れていると感じた。また、職場見学を通じても実際にどのように工夫して力を入れているか感じる事ができた。説明会や職場見学で実際に働いている方の声を聞くことも雰囲気を知る上で重要だった。

また、都内での就職ということもあり、通勤のしやすさや金銭的負担の軽減という点から、寮があるかどうかを重視していた。

(知事)

就職先の病院は何で知ったのか。

(E氏)

自分の興味がある専門分野に特化した病院であり、自ら探した。

(F氏)

現時点では、一人暮らしへの不安が大きいため、実家から通える範囲内で、可能であれば秋田市内の企業が良く考えている。

大学のゼミの活動として、鉄道会社の方々と一緒に秋田駅前のにぎわい創出プロジェクトを行っているが、その会社は社員同士の仲が良く、互いに意欲を高めながら仕事をしているのを目にし、そのような社風の会社が良く考えている。

仕事の時間だけでなく、プライベートの時間も充実させたいため、リモートワークやフレックス制、育休などの制度があり、多様な働き方ができる職場は魅力的だと感じている。

(局長)

鉄道会社の話があったが、具体的にどのような点で魅力を感じたのか。

(F氏)

プロジェクトで接する社員が全員面倒見が良いほか、若手社員であっても自由に意見しやすい環境が整っていると感じた。

(局長)

皆さんの待遇面も重要だが、人のためになる仕事をしたいという意識が強いと感じた。

次に、就職活動をしていく上で、企業等を選ぶポイントも変化していったかと思うが、どのように変わったかとその理由をお話しいただきたい。

(D氏)

県内企業でインターンシップを行ったことがきっかけで、事業内容や仕事内容などを見て選ぶようになっていった。インターンシップ先は、全国の手企業と比較するとそれほどでもないが、県内では待遇は良い方であり、事業内容も楽しかった。3か月のインターンシップを通じ、自分の価値をどう生かすかという点で、より業務内容を重視するようになった。

なお、ベンチャー企業は選ばなかった。将来転職することも考えているが、ベンチャー企業から大手企業に転職する例は少ないため、新卒という切符をベンチャー企業に使うという選択肢はなかった。

(局長)

一つの会社である程度キャリアを積んだら、また次のステップに進むつもりか。

(D氏)

やりたいことも変化していくと思うので、今の時点では、一つの企業でずっと勤めるということは考えておらず、やりたいことや興味がある分野に関する企業に移っていくつもりである。

(知事)

理系の方は自分の専門分野が決まっているため、一生専門分野で働きたいと考える方が多い。しかし、免許が必要な看護師や建築系の分野などを除き、就職すると、ずっと特定の分野でだけ働くというのは難しく、全く別の分野に異動させられる可能性もある。それによって専門分野が増えたり、別の分野で成果を上げたりすることもある。私も卒業後は大手メーカーに就職したが、今では全く別のことをしている。

(局長)

最初の質問に対するC氏の発言を聞くと、インターンシップを受ける前の段階も重要だと思うがどうか。

(C氏)

最初の質問の際も話したとおり、インターンシップは実質的な早期選考に直結していると感じており、事前に企業を知ってから受ける必要があると感じた。

(局長)

周りの方も含め、どのように情報収集したか。

(C氏)

インターネットでの検索に加え、OB・OGから直接聞く情報はどこにも載っていないため貴重であった。

(局長)

直接企業の方とやりとりしていく中で志望先が固まっていくイメージか。

(C氏)

そのとおりである。

(B氏)

一般的な就職活動はしていないため、特に変化があったということはない。

(局長)

以前から就職先の企業のことは知っていたのか。

(B氏)

昔から馴染みのある店だったため、4年生になり就職を考えた際、そこで働きたいと思ったので、自らを売り込みに行った。

(局長)

A氏については、現在就職活動継続中とのことだが、就職活動をしていく中で何か変化はあったか。

(A氏)

残っている企業から選ぶとなると、給料の高さや県外への転勤、ワーク・ライフ・バランスなど他の何かを捨てないといけないと思うようになってきた。

(局長)

地元貢献という観点で就職活動を進めていただいております、非常に嬉しく感じる。

何かを捨てるということは、これまで企業を選ぶ際は、待遇を重視しすぎていたということか。

(A氏)

自分の持っていたイメージと企業の求める人材がマッチしなかったということだと思う。

地元で貢献できる企業を中心に選んでいたが、業種もバラバラで選んでいたことや、大学で学んでいる分野についても、企業側からすると即戦力とまではいかないということも要因だと思っている。

(局長)

企業の情報収集はどのように行っているか。

(A氏)

OB・OGや企業説明会で直接話を聞いたりして、情報収集している。

(E氏)

自分が取り組みたい領域の病院を探していたが、元々希望していた法人は複数の病院を経営しており、私の配属先は希望する病院ではなかった。就職活動は必ずしも自分が思い描いた結果にならないというその経験から、少し価値観が変わり、自分が成長できる環境か、目的を持って働ける環境かどうかを一番に考えるようになった。

(局長)

就職活動を通じて企業とやりとりする中で、仕事に対する意識が変わっているように感じた。

数ある企業の中から最終的に就職先を選んだ決め手について、何だったのかお話しいただきたい。

(B氏)

先ほども話したとおり、東北で長く好きなことを仕事にしたいという思いがあり、食に関しても興味があった。こうした思いがあるため、就職先では、たとえ困難なことがあってもやり遂げることで達成感につながると思っている。また、就職先の社長と話す機会もあったが、社風や社員同士の関係なども知ることができ、それが自分に合っていると感じたため、改めてそこで働きたいという決め手になった。

(局長)

企業の規模などはあまり気にならなかったか。

(B氏)

大手企業よりも、小さくてもその地域で地域ならではの店をやっている方が自分にも合っている。

(局長)

経営者の方と話したことも決める後押しとなったのか。

(B氏)

そのとおりである。社長と話した際、これまでは新店舗のレイアウトを自社で行っていたが、仙台に出店する際には、初めてデザイン会社にレイアウトを依頼したようで、入社後は店舗レイアウト等でも能力を発揮してもらいたいという話もあった。

これまでの採用とは異なるジャンルからの入社であっても、戦力として期待していただいたため、よりそこで働きたいと思った。

(E氏)

一番は、学びたい領域が学べることであるが、それ以外にも、働いたことがある方々から生の声を聞けるということが自分の中では大きかった。たまたま大学の先生の中にその病院で働いたことのある方がいたため、先生から話を聞き、実際に見学に行こうということになった。

(局長)

就職活動をする中で、大学の先輩と話す機会はあったか。

(E氏)

コロナ禍ということもあり、あまりなかった。大学内外での就職説明会の際、説明者として大学の先輩から話を聞く機会はあった。

(局長)

都内の病院に就職するということだが、県外に出たいという意識があったのか。

(E氏)

元々は県内で就職することを考えていたが、実習を通して、自分が人のためにどのように役に立ちたいかを考えた際、自分が成長できる環境として、専門的な領域という選択肢もあると思い、東京まで視野を広げて選んだ。

(D氏)

決め手は三つある。

一つ目は、自分のやりたいことや興味があることができるかであり、競合他社と比較した結果、この先やりたいことができるだろうと思ったためである。具体的には、地方を盛り上げたいと思っており、私の就職先は、秋田県でも様々な取組を行っているなどの実績もある。

二つ目は、業界トップの会社であり、優秀な方々と一緒に仕事ができることで自分の成長につながることである。

三つ目は、会社の雰囲気である。1～2年生の時、仲のよかった先輩もその会社に就職しており、その先輩や他の方と話す機会があり、カルチャーが合うと感じた。

(局長)

地方に貢献したいと思うきっかけは何かあったのか。

(D氏)

インターンシップやボランティアを通じて秋田や地方の魅力に触れ、まだまだチャンスがあるなと感じたので、もっと多くの人に広めたいと思った。

(局長)

A氏からも、もし最終的に決定する段階になったらどのようなポイントで選ぶつもりかお話しいただきたい。

(A氏)

私は地元貢献できるかどうかを重視しているが、これまで見てきた企業は、本業のほかに地域貢献のための事業を行っていた。ただ、知名度の低い企業が行っても影響力は低いと思われるため、業界内でのシェア率の高さなどで影響力が高そうな企業を選んできた。

(局長)

ワーク・ライフ・バランスの話について多くの方が重視しているようだが、もう少し掘り下げてお聞きしたい。

(F氏)

先ほどもお話ししたとおり、リモートワークやフレックス勤務などができる環境は魅力的であると思う。しかし、現在接客のアルバイトをしている経験から、人と接する仕事をしたいと思っており、リモートワークについては、制度としてあれば良いと思うが、フルリモートや在宅勤務中心というのは魅力を感じない。

(局長)

将来の人生設計なども踏まえて、そのように考えているのか。

(F氏)

将来、子育てをする際などには、選択肢としてあった方が良いので重視したい。

(B氏)

私の場合、ワークとライフのバランスというよりは、両者がグラデーションのように混ざりあっていて、自分がやりがいを感じることや好きなことなどをそのまま仕事にしたい。もし仕事の時間がオーバーしていたとしても、自分の伸びしろや達成感があるのであれば、苦にならないと感じている。

(E氏)

出産を経てもずっと働き続けたいと思っており、時短勤務など仕事と家庭の両立ができるような制度が整っていること、また、それを許容する雰囲気がある職場が良い。大きい病院は業務量自体

も多く、夜勤もあるため、いずれはクリニック等の小規模な病院に勤めるという選択肢もあると思っている。

(D氏)

ワーク・ライフ・バランスは全く考えておらず、20代はがむしゃらに働きたいと思っている。そのため、企業を選ぶ際にも特に考慮していない。

(局長)

インターンシップについてもお聞きしたい。

(A氏)

県内企業1社のインターンシップを受けた。誰でも気軽に参加できると言われているが、周りの話を聞いたり、実際に受けたりしたところ、早期選考のための取組ではないかという印象が強く、気軽に受けられる感じではなかった。そのため、もっと気軽に参加できるようにしてほしいと感じた。

社員の方々は参加学生に寄り添ってくれ、採用とは直接関係ないとも言われたものの、一つ一つの動作を見られているのではないかとプレッシャーを感じた。

(知事)

私も学生のころ受けたが、当時はインターンシップという言葉自体がなく、研修と呼ばれていた。私は2社にそれぞれ1週間程度行ったが、就職先は全く別だった。

(F氏)

今年の夏に参加したいと思っているが、最近は早く就職が決まる方が多いため、インターンシップの重要性を感じている。また、インターンシップに限らず、働いている方々の声を直接聞ける機会があれば就職先を選ぶ際の視野が広がるのではないかと。

(局長)

インターンシップ先を探す際はどのように探すつもりか。

(F氏)

アプリで自ら探して応募することになると思う。

県内企業であれば、学校からも案内があるようだ。

(D氏)

県内企業のほか、東京の企業でもインターンシップを受けた。A氏の言うとおりに見られていると感じるなど、選考の要素が大きかったものの、就職活動の一環として受けたこともあり、特に不安等はなく、そのようなものだと思っていた。

(知事)

昔と今ではインターンシップのあり方が違う。昔は就職前提ではなかった。私の同級生で、インターンシップ先に就職した者はいないかもしれない。選考に結び付くようなやり方は企業にとっても悪い面もあるのではないか。

(局長)

インターンシップについては、長期化、専門化の傾向にあるようだが、もっと気軽に参加できるものもあっても良いのかもしれない。

県では労働局等と連携し、合同就職説明会を行っているが、これについて改善点等の意見はあるか。

(A氏)

一度に様々な企業の話が聞けるのは良いが、毎回参加する企業が同じで代わり映えしなかった。また、自分が話を聞きたい業界の企業が参加していなければ、県内での就職を諦めることにもつながるため、そういった学生へのサポートもあれば良い。

(局長)

県内企業の説明の仕方などはどうだったか。

(A氏)

若手社員が説明し、短いキャリアの中でもしっかり説明してもらえ、良い点だけのみならず悪い点まで話してくれたのが参考になった。

(局長)

県では、中学生や高校生を対象とした企業説明会等の機会も提供しているが、振り返ってみてどうだったか教えていただきたい。

(C氏)

中学生の時に、就職先である鉄道会社で職場体験を行った。鉄道業界への就職は幼少期からの夢だったが、職場体験を通じて就職への思いが更に強くなった。

(E氏)

中学生の時、和菓子製造業の企業で職場体験を行った。社員の方が和気あいあいと働いており、このような感じで働いているのかと感じた。

(A氏)

中学と高校で職場体験を行った。希望する企業へは行けなかったが、普段知らない世界を知れたことは良い経験となった。

(局長)

これまで就職活動をしていて困ったことやそれに対する支援などの要望、若い方が地元に着・帰するために必要なことなどについてお話しいただきたい。

(A氏)

ビジネスマナーを身に付けてから説明会等に参加すべきという話をされるが、私の大学ではあまり教えてもらえず、ほぼ独学だった点が困った。また、選考が進む場合のみ連絡するというケースも多いが、学生の印象は良くないため、改善した方が応募も増えるなど企業にもメリットがあると思う。

また、就職活動前の早い段階から企業と関われる機会を増やす取組も必要だと思う。

(B氏)

就職するということは、その地域で暮らすことと関連するため、私は、その地域がいかに関係にあるかということも大事にしている。交通網や地域性なども含め、街として整ってれば、そこに就職したい、留まりたいという意識が生まれるのではないかと。

また、今の若い方はファスト消費の傾向にあり、分かりやすく早い情報が好まれるため、それに参加すればどのような情報が得られるかなどが見てすぐ分かるようなアプローチが必要である。

(C氏)

中学・高校からの職場体験や企業説明会などを通じて、早期から県内企業の認知度向上を図っていくことが大事だと思う。

(局長)

I T系の誘致企業など県外から進出してきた企業の情報は届いているか。

(C氏)

私は鉄道業界一本だったため承知していないが、私の周りでは情報を得ているという話もちらほら聞く。

(D氏)

近年、私の大学の卒業生で県内に残る方も増えてきたが、その方々の共通点は県内企業との接点があることではないかと考えている。接点を持つことによって、県外に出ても戻ってくる可能性は高いと思うので、就職活動前に企業と接点を持たせることが必要となると思う。

(E氏)

コロナ禍で説明会がリモートでの開催だったが、移動時間などを考えなくて良かったため、かえって良かった。説明者がカメラを持って院内を回ってくれるなど、リモートでの開催であっても支障がなかった。学生は参加しやすくなるため、コロナが収束しても続けてほしい。

(知事)

単に開催方法をリモートにただけで、人事担当者が説明するのではなく、現場を見られるようにするなどの工夫が必要である。県内企業が首都圏等の学生にPRする際など、わざわざ足を運んでもらわなくともIT技術を活用すべきではないか。

(F氏)

中学・高校時に職場体験の機会があったが、大学進学を考えていたため、当時はあまり興味が湧かなかった。そのため、大学入学後、就職活動開始前までに、学生が受け身ではなく主体的に企業と交流する機会があれば良い。

知事総括

様々な意見をいただき感謝申し上げます。

インターンシップのあり方、企業説明会や面接のあり方などについて、皆さんの実体験を踏まえた貴重な意見をいただいた。県内企業に対する意見等については、企業へフィードバックしていきたい。

今後皆さんは様々な場所で活躍すると思うが、どこに行っても頑張っていたきたい。県内に残りたい方が県内に残れるようにする必要があり、やむを得ずに県外に出てしまうような状況は改善しないといけない。今回様々なヒントをいただいたので、今後の政策の参考としたい。また、県外に出ていく方々もいるが、様々な立場から秋田を応援していただきたい。